令和４年度学校だより

善誘館

全国学力・学習状況調査の結果について

甲府市立善誘館小学校　校長室

校　訓　「善行・勤勉・体育」
学校教育目標
○　思いやる心をもつ子
○　よく考え工夫する子
○　元気でたくましい子

２０２２．１０．６

◎全国学力・学習状況調査の結果について

○全国学力・学習状況調査とは

本年度の全国学力・学習状況調査は，４月１９日（火）に全国の小・中学校において実施され，本校でも６年生を対象に実施しました。内容は「国語」「算数」「理科」「質問紙」となります。平成１９年から始まったこの調査の目的は，教育の機会均等と教育水準の維持向上の観点から，子供たちの学力や学習状況を把握し，教育施策に反映させるとされています。また，教職員の指導力向上もねらっています。今回は，４年ぶりに「理科」も実施し，広く児童の状況を把握することとなっています。本校においても，その趣旨を理解するとともに，学力や生活状況を把握し，その改善に努めてまいります。その調査内容は以下のとおりです。

◇教科に関する調査（国語・算数・理科）

・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できることが望ましい知識・技能等
・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

◇質問紙調査

・学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

こうした学力調査の実施は，児童の学力や学習の状況を把握・分析し，教育活動の成果と課題を確認し，その改善を図ることを目的としています。今年度の調査結果を分析し，その取り組みについてまとめましたのでお知らせします。

○本校の学力・学習状況調査の結果について

◇教科に関する調査（国語・算数・理科）について

①全国の平均正答率との比較（全国・山梨）

文部科学省では，平均との差±5%を微差とし「±5%は，ほぼ同等を意味する」としています。このことを基に±5%の範囲にある場合「ほぼ同等」，＋5%以上を「上回っている」，－5%以下を「下回っている」と表します。

（参考）教科別の平均正答率：全国と山梨県比較

	国　語	算　数	理　科
全国　平均	６５．６%	６３．２%	６３．３%
山梨県平均	６４　%	６２　%	６２　%

※都道府県正答率の小数点以下はあきらかにされていません。

②本校の教科に関する問題の状況（全国・山梨県との比較）

本校の結果は，全国平均正答率の±５%の範囲内にある場合は全国平均とほぼ同等という観点からすると，算数・理科とも全国及び山梨県平均とほぼ同等ですが，国語は全国及び山梨県平均を下回っており，やや課題が残る結果となりました。

③傾向や課題

【国語】

正答率を全国・県と比較すると上記のような結果となっています。必要なことを質問して話の中心を捉えること（話すこと・聞くこと）や人物像や物語の全体像を具体的に想像すること（読むこと）は

できています。しかし，言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることや漢字を文章の中で正しく使うこと（言葉の特徴や使い方に関する事項），互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い自分の考えをまとめること（話すこと・聞くこと）,文章に対する感想や意見を伝え合い自分の文章のよいところを見つけること（書くこと）に，特に課題が見られました。

【算数】

正答率を全国・県と比較すると前述のように，全国・県とほぼ同等の結果となっています。二つの数の最小公倍数を求めること（数と計算），百分率で表された割合を分数で表すこと（変化と関係），分類整理されたデータを基に目的に応じてデータの特徴を捉え考察すること（データの活用）はできていました。しかし，示された場面を解釈し除法で求めることができる理由を記述すること（数と計算），百分率で表された割合と基準量から比較量を求めることや数量が変わっても割合は変わらないこと（変化と関係），表の意味を理解し全体と部分の関係に着目してある項目に当たる数を求めること（データの活用）に課題が見られました。

【理科】

正答率を全国・県と比較すると前述のように，全国・県とほぼ同等の結果となっています。ナナホシテントウに関する問題を解決するために必要な観察の視点を基に解決の道筋を構想し自分の考えをもつこと（生命），自分で発想した実験の方法と追加された情報を基に実験の方法を検討して改善し自分の考えをもつこと（エネルギー・地球），天気と気温の変化を観察した結果を分析して解釈し自分の考えをもつこと（地球）はできていました。しかし，日光は直進するといった光の性質について理解することや缶の色と水の温度変化との関係についての実験で得た結果を分析して解釈し具体的な数値や分析した内容に基づいて，結論の根拠を記述すること（エネルギー），砂糖水を凍らせた物が水に沈んだという情報を，自分や他者の気付きを基に分析して解釈し適切な問題を見いだし記述すること（物質・粒子）に課題が見られました。

③本校の各教科における主な改善点及び授業における具体的取組

【国　語】

- 話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き，継続させる言葉の働きに気づくことができるように，振り返りの場面などで自分たちの話し合いの様子を確かめる活動を設定する。また，文や文章の中で漢字を使おうとする習慣を身に付けるようにするために漢字を漸次書き，文や文章の中で使うように指導する。（言葉の特徴や使い方に関する事項）
- 異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるよう，「～という意見もあったが」「～という考えもあるけれど」などの表現を話し合いの中でできるよう指導する。（話すこと・聞くこと）
- 互いの書いた文章を読み合い，目的や意図に応じた文章の構成や展開になっているかなどについて，感想や意見を述べ合うことを通して，自分の文章のよいところを見付けることができるように指導する。（書くこと）

【算数】

- 日常生活の問題を解決するために，一つ分の大きさ，幾つ分，幾つ分かに当たる大きさの関係を捉え，式に表したり，式の意味を説明したりすることができるよう指導する。（数と計算）
- 割合を用いて問題を解決するためには，問題場面の数量の関係を捉え，基準量，比較量，割合の

関係について理解し，数学的に表現・処理できるようにする。その際，日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり，図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるよう指導する。（変化と関係）

・問題場面の数量の関係について，四則を混合させたり（　）を用いたりして一つの式に表すことができるよう指導する。また，目的に応じて，必要なデータを収集し，観点を決めて分類整理し，データの特徴や傾向に着目して考察できるように指導する。（データの活用）

【理科】

・観察実験の結果の具体的な数値やそれを分析した内容などを根拠として表現する場面や，問題を的確に把握し何を記録する必要があるかについて検討する場面を設定するなどした指導をする。（エネルギー）

・自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で，自分や他者の気付きを捉え，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす場面を設定するなどした指導をする。（物質・粒子）

◎今回出題された中から，全国の平均回答率が低く，本校の６年生として課題として考えられる問題を取り上げてみました。

※国立教育政策研究所の HP に全問題，正答例が掲載されています。よろしければ御参照ください。

◇国　語

設問１の（３）

互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題　［話すこと・聞くこと］

調査結果の分析　・問題の【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書いているが，選んだアイデアの問題点に対する解決方法を書いていない児童が多い。

・互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等を踏まえ，自分の考えをまとめることに課題が見られました。

【授業改善のポイント】

〇互いの立場を明確にし、話し合う言語活動を充実させる。

活動例・話し合いのモデル文をもとに，様々な意見を踏まえた考えのまとめ方について学習する。

・司会や意見を述べる人などの役割を決め，少人数での話し合いを繰り返す中で，互いの立場や意見を整理できるようなメモや学習プリントなどを活用し，自分の考えをまとめる。

・「話したい」「聞きたい」という思いを大切にした話し合いの場の充実を図る。

活動例・総合的な学習の時間や社会科などの学習内容から，「話したい」「（友達の意見を）聞きたい」などの話し合う必要感がある話題を選ぶ。

・自分の立場を明確にするために，話題についての自分の考え（現状と課題，解決方法，理由など）を付箋や学習プリントに書き出す。

◇算　数

設問４の（１）

正三角形の意味や性質を基に，回転の大きさとしての角の大きさに着目し，正三角形の構成の仕方について考察し，言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題　［図形］

調査結果の分析　・かこうとした正三角形をかくためにどの命令を直すかについて，正答を選んだ児童のうち，命令を正しく書き直すことができずに誤答した児童の割合が多かった
・作図の手順からどのような図形ができるかについて確かめて改善することや，作図の仕方を筋道立てて説明することに，課題がみられました。

【授業改善のポイント】

〇筋道を立てて作図の手順を説明することができるように，数学的活動を充実する。

活動例・図形を構成する要素に着目しながら，作図の仕方を多様に考える。
・図形の性質を関連付けながら，作図の仕方について記述したり説明し合ったりする。
・示された作図の手順を基に，どのような図形ができるかを予想し，実際に作図して図形の性質を確かめ合ったりする。

〇ＩＣＴ機器を活用した活動を充実する。

活動例・図形を動的に観察し，図形の性質を見付けたり確かめたりする。
・プログラムの一部を変えることでいろいろな図形を作図できることに気付いたり，発展的に考えたりする面白さを実感する。

◇理　科

設問２の（４）

自然の事物・現象から得た情報を，他者の気付きの視点で分析して，解釈し，自分の考えをもち，その内容を記述できるかどうかをみる問題　［物質・エネルギー］

調査結果の分析　・水溶液を凍らせた物を対象としていない内容で記している児童が多い。
・自然の事物・現象や他者の気付きを基に，分析して，解釈し，自分の考えをもち，その内容を記述することに課題がみられました。

【授業改善のポイント】

〇自分や他者の気付きを基に，差異点や共通点を捉え，新たな問題を見いだしていくような場面を充実させる。

活動例・生活経験や実験結果，結論などを基にして，気づいたことを出し合い，何をどのように調べていくのか考える。
・問題に対する予想を，図や言葉を使ってノートやワークシートに表現し，友達との差異点や共通点に着目しながら全体で話し合う。

〇観察，実験などの方法を具体的に見通そうとすることを価値付ける場の充実を図る。

活動例・「問題に対する予想」と「実験方法」，「予想どおりになった場合の結果の見通し」および「結果」が並んだ板書を基にしながら，より妥当な実験方法について考える。

◇質問紙に関する調査について

①全体的な特徴

この「質問紙調査」は，「基本的生活習慣」「挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感」「学習習慣・学習環境」「学習に関する興味・感心や授業の理解度」などの状況を把握する内容となっています。善誘館小学校の児童は，多くの項目で「当てはまる」「どちらかというと当てはまる」などの肯定的な回答をしていました。以下に質問紙調査に関する詳細を示します。

②学習意欲や学習状況に関する内容

☆「生活習慣」

生活習慣や学習環境に関するほとんどの項目において，肯定的な回答をした児童の割合が全国

平均を上回っています。食事・睡眠など規則正しい生活ができており，自己肯定感も高い。学校生活にも満足している児童が多く，学級活動などを通して仲間を大切にする意識が本校の児童は高いです。ただ，家庭学習は少しずつ浸透しつつありますが，平日に１時間以上している児童が５割弱であり，全国平均より 10ﾎﾟｲﾝﾄ以上低くなっています。その反面，学習以外でスマートフォンなどの使用が全国に比べて高い傾向にある中で，これからも家庭との連携を進め，さらなる家庭学習の充実を図り，基本的な生活習慣の定着を図っていきたいです。また，家庭学習は，「学んだことを定着させる」という重要な役割があり，確かな学力の向上には欠かせないものであるということを全職員で共通理解を図っていきます。

☆「挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感」

この設問では，「いじめはどんな理由があってもしてはいけないこと」「人の役に立つ人間になりたい」の項目については 100%の児童が肯定的な回答をしていました。「学校に行くのが楽しい」「友達と協力することは楽しい」に関しても，肯定的な回答が多かったです。その反面，「自分の良いところを認める」，「将来の夢や目標を持っている」などの項目で肯定的な回答が若干低めでした。また，「失敗を恐れないで挑戦する」「自分と違う意見について考える」については低い値となっています。

☆「主体的・対話的で深い学び」

児童の授業に対する取り組みで，「話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすること」や「課題に向けて自分から取り組んだ」に対しては，肯定的な回答が多かったです。しかし，「自分の思いや考えをもとに，新しいものを創りだす活動」に関しては，肯定的な回答が若干低い値でした。創意，創造に関しては苦手意識を持っている児童もいるようです。

◇令和４年度の学力向上の取り組み

（１）教師の授業力の育成

校内研究を中心に，授業力の向上を目指し研修をおこないます。学習形態を工夫（友達同士の学び合いの場面を設定する）すること，ユニバーサルデザインを取り入れた授業を工夫することで，児童の学びを深めていきたいと考えています。

（２）学習環境の整備

教室の壁面を利用し学習コーナーを設けるなど，日常的に学習環境を整える工夫をしていきます。ＩＣＴ教材を活用することで，児童の興味・関心を高め，楽しみながら学ぶ経験をもたせていきたいと考えます。

（３）安心して学ぶことができる学級

児童が「勉強したい」と思うためには，安心して学ぶことができる学級が必要です。「まちがっても大丈夫」「失敗しても大丈夫」安心して挑戦することができる親和的な学級づくりに取り組みます。学級担任であると同時に，学校担任として児童と向き合っていこうと思います。

以上が全国学力・学習状況調査の結果の概要と，それを踏まえた善誘館小学校の取り組みです。このような学力調査で計られる「学力」は，あくまで「学力」の一部です。何を理解しているか・何ができるか（知識・技能），理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力），どのように社会・世界と関わり，よりよい人生をおくるか（学びに向かう力・人間性）の３つの柱をバランスよく育成し，知・徳・体の調和のとれた『生きる力』を育成することを大切にしていきたいと考えています。また，保護者・地域の皆様には，学力調査の点数だけではなく，児童の意識・生活状況等を含めた「学校全体の状況（良い点や課題点）」も見ていただき，引き続き御理解と御協力をお願いいたします。